

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

| 学校名        | 埼玉県立松山女子高等学校                                       | Aグループ  |
|------------|--|--|
| 項目         | 調査の観点  | 取組状況に関する所見   |
| 目指す学校像     | 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。                    | 学校に寄せられる期待やニーズを的確に把握し、課題の解決に向けた方向が整理された、分かりやすいものとなっている。創立90周年を機に、地域や卒業生に見守られ支えられてきたという学校の文化を再認識し、感謝の気持ちとともに目指す学校像を捉え直すとする機運が高まっている。                                  |
| 重点目標       | 学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。 | 学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。目指す学校像を踏まえ、自主自立の精神の醸成や地域との協力・連携を推進するといった、学校の取り組むべき課題が明確かつ具体的に示されており、中期的な目標としてふさわしいものとなっている。   |
| 重点目標達成への取組 | 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。                   | 学校自己評価システムの運営を担う企画委員会が十分機能しており、重点目標を達成するための体制がよく整っている。今後は、重点的な取組をシートに位置付けるとともに、具体的な方策等をリードする委員会のシートを作成するなど、分掌・学年等のシートづくりに一層の工夫をしていただくと更に良い。                          |
|            | 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。                           | 学校進学力パートナーシップ推進事業に取り組む中で、教職員間に授業改善や進学指導の一層の充実に積極的に努力するという雰囲気醸成されている。なかでも、授業改善の取組は教職員間の共通理解から生まれたものであり、教職員の高い参画意識に支えられ、何事にも真摯に取り組むという学校文化とも相まって、組織的かつ効果的な優れた取組となっている。 |
|            | 校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。        | 校長が学校の現状や課題を踏まえた明確な学校経営の方針を持って取り組んでいる。校長のリーダーシップが的確に発揮され、企画委員会が適切に機能しているので、課題の解決に向けて学校全体として更に有機的に取り組むことが期待される。   |
|            | 学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。        | アンケートや学校関係者評価などを基に取組を検証するための情報収集に努めている。データは豊富だが分析や考察がやや十分でないので、データを有効活用するために、次年度のシートへの反映を図る際、評価項目を見直したり、評価指標を適切に設定するなどして、PDCAサイクルのスパイラルアップを進めていただきたい。                |
| 特記事項       |  |  |